

印西大師 第58番 船尾・観音堂

1 名称 (No.058)〔手引鏡：東光院〕〔資料館：東光院?〕〔行程表：野口観音堂〕

2 場所 印西市船尾1303 船尾北堂共同墓地
松崎・多聞院から道程約1350m

GPS座標 35.78488622872951, 140.12879537057884

3 由緒 天台宗

船尾村字本郷にあり 東光院末にして天台宗
たり 観世音菩薩を本尊とす 由緒不詳 信徒
百人 (印旛郡誌)

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1
体あり。

5 境内 全体が船尾北堂共同墓地で、大師堂
のほか船尾公民館や石造物がある。西隣に白山神社がある。

6 写真 (2019.09、2023.10撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



船尾公民館



船尾北堂共同墓地



白山神社

7 情報

(1) 印西大師 第58番 東光院 御詠歌 (泉倉寺本による)

立(たち)寄りて佐禮(礼)の堂に休みつつ 六字を唱へ経を読むべし

四国八十八ヶ所 第58番 高野山真言宗 作礼山(されいざん) 千光院 仙遊寺(せんゆうじ)

本尊 千手観音菩薩 (愛媛県今治市) 写し

(2) 東光院から遷座

手引鏡には、「第五十八番 ふなお (船尾) とうこういん (東光院)」の次に「第廿五番 同 同寺」と記載されています。両札所間の道程の記載がないので同じ場所といえます。上記の泉倉寺本の御詠歌も「東光院」とあり、また、明治39年の梶原納経帳においても、第58番と第25番は共に「東光院」となっています。つまりかつては第58番と第25番は共に東光院にあったが、

(時期はわかりませんが) 後に第58番が現在地に遷座されたことになります。前の札所である多々羅田・太子堂から東光院までの道程(12丁半)がやや長いので、休憩場所を兼ねて中間点付近に移したものでしょうか。それとも「武西や船尾を中心とする船穂地区の小廻り大師がある。春秋の彼岸に行われているところから彼岸大師ともいわれ、印西大師にならって善男善女の巡礼が行われている。」(1996年発行・印西町史 民俗編)ように大師講が盛んな地区なので、小廻り大師の際に地区内を満遍なく巡回できるよう、ここに第58番を移したのでしょうか。

このことについて地元のSさんにお聞きしたところ、ある人の祖父が北堂(野口観音堂と同じ)に印西大師を建てたことがわかりました。時期や理由はわかりませんが、やはり第58番は東光院から遷座されたようです。

(3) 北堂

平成6年寺院堂庵明細表(印西町史)には、「北堂」が本郷1303にあり天台宗で東光院に所属し、聖観音を本尊とすることが記載されています。

(4) 野口観音堂

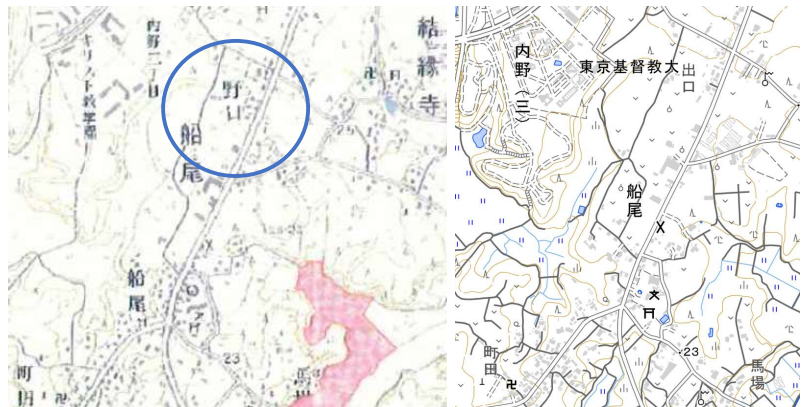
行程表には、「船尾 野口」(平成19年度)又は「船尾 野口観音堂」(平成24年度)と表記されています。「野口」について地元のSさんにお聞きしたところ、「野口」というのは船尾の中の地名だそうです。

後日印西市のホームページを見ると「船尾地区土地改良事業共同施行に伴う、字の区域及び名称の変更」(平成24年7月3日印西市告示第109号)の資料の「位置図」(右上の左図)の中に「野口」という地名が見えます。しかし、かなり北にあるうえ、国土地理院の地図(右上の右図)には「出口」と表示されています。

明治初期の迅速測図(右上図)には、観音堂のところに「卍」の印がありますが、東光院のあたりにはなぜか印がありません。

(5) 令和6年度印西大師(右の写真)

第3日目に、先達(南陽院住職)と元村(笠神)世話人、師戸・平賀の世話人など約20人ほどの巡拝の方々が来て、大師堂前で般若心経を納経(読経)されました。ここではお接待はなく、次の札所



の東光院でお接待が行われました。

(6) 白山神社

社名 白山神社 社格 無格社 所在地 船尾村字本郷 祭神 伊弉冊命(いなぎみのみこと)
由緒 不詳 氏子 63人 (印旛郡誌)

(7) いぼ神様

船尾のいぼ神様は、体にイボができたとき、社殿に奉納されている左槌(よ)りの縄1本借りてきて、この縄でイボをこすると治ると言い伝えからこう呼ばれています。イボが治ったら、同じ左槌(よ)りの縄1本をお礼として奉納する習わしがあります。

正式名称は、白山神社といい、加賀(石川県)が本社とされています。本殿は総檜の一間社流造りで、建築年代や作者は不明ですが、明治時代に改築が行われています。この本殿の特徴は、檜の木目が美しいことと、細部までほどこされた精巧な彫刻と斗組です。中備には、玉を持った竜が彫られ、左右の小脇板には、鶴が向き合うように彫られています。また、3面の羽目板には、六歌仙「古今和歌集」仮名序に論評されている平安初期の6人の歌人が一人ずつ彫られています。各人物の識別はむずかしいですが、東面と西面の人物は男性、北面の人物は、小野小町と推測されます。さらに、木鼻には、中備と同じく竜が、縁には波、妻飾りには雲の彫刻がほどこされています。11月1日に祭礼が行われます。(以上、印西名所図会より)

2025.03一部修正